

## 御言葉によって得られるもの

## マタイ13:1~9、18~23 / 李正雨師

今日の福音書は、御言葉がどのように人々に伝えられ、根付くかについてのことです。ここで興味深いのは、神様の言葉を伝えられたからといって、みんなが神様の言葉を受け入れるとは限らないということです。むしろ御言葉を受け入れ、悟る者はそれほど多くありません。神様の言葉を聞いても拒否する人、聞いたことはあっても悟らない人、自分のいろいろな状況によって神様の言葉に従わない人などがより多いです。ですから、私たちが伝えた福音を聞いて受け入れなかったといって、がっかりしたり、落胆したりする必要はありません。受け入れない方が多いということ、これは、イエス様の時代からあったことだからです。それで、迷い出た羊一匹を探した主人があんなに喜んだのでしょう。

それにもかかわらず、御言葉を受け入れる人が少ないにもかかわらず、神様は絶えずこの世に向かって御言葉の種を蒔かれます。この世に向かって絶えず御言葉を蒔くこと、私はこれが神様の恵みだと思います。皆様、一度考えてみてください。農夫は通常どこに種を蒔きますか。実を収めるためには、土地に蒔きます。それも肥やしをやって、土地を均した良い土地に種を蒔きます。ところが、今日の福音書でイエス様は、御言葉がどこに蒔かれたと語られていますか。良い土地だけに蒔かれませんでした。石だらけの所にも、茨の所にも、さらには道端にも蒔かれます。誰も愚かな者でなければ、実を結べない所に種を蒔きません。しかし、神様はどこでも種を蒔かれます。そこが実を結べない所であっても、種を蒔かれるのです。

それでは、これは種を蒔く目的が収穫のためだけではないということです。豊かな実を得ることが目的ではないでしょう。実を結ぶことへの望み、良い土地だけでなく道端にも公平に種、つまり御言葉が蒔かれることを願う心があるからだと思います。それで、今日の福音書で種を蒔く人は、収穫ができない所にも種をまきます。まるで愚かな者のように、道端にも、石だらけの土地にも、茨の間にも、種を蒔くのです。すべての人は神様の愛を受ける資格があるので、神様は実を結べないことを知っておられたのに、御言葉の種を蒔かれたのです。これが恵みであり、私たちルーテル教会が最も強調していることです。すべては天から地上に降ります。しかも、私たちがささげているこの礼拝さえも、天から降るものです。神様がお降りになり、私たちと会ってくださる場所。その場が礼拝の場なのです。それで、私たちの心が道端のように硬くても、石だらけの土地や茨の土地のように心配と悩みが多くても、礼拝の場は恵みの場になるのです。神様が休まず、恵みを蒔かれておられるからです。私たちの信仰の実とは関係なく、私たちに御言葉が与えられているからです。

先週、私は飯能教会でイエス様の時代は、排他的で不信の時代だったと説教しました。政治的には親ローマ派と反ローマ派、宗教的には律法主義と禁欲主義などに分かれていた時代でした。そして人々はみんな、自分の主張だけを正しいと思いました。お互いのことを認めず、自分の主張に反したら、敵と見なしました。自分だけが正しいと思っていた時代、隣人に関心のない時代、自分だけのための神様を探し求めた時代、神様は、そのような時代にイエス様をお遣わしになりました。私たちみんなの平和のために、お互いの不信と誤解を払拭するためにメシアをお遣わしになったのです。そしてイエス様は、私たちみんなのメシアになりました。公平にすべての土地に御言葉が与えられたのです。

しかし、今日の福音書は、公平に蒔かれた御言葉、恵みだけを語っていません。実を結ぶことと結ばないことも語っています。延いては、御言葉によって発生することについても語っています。今日の福音書19節の言葉です。「**だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。道端に蒔かれたものとは、こういう人である。**」御言葉を聞いても悟らなければ、御言葉を奪い取られることとなります。神様の恵みが与えられましたが、受け入れなければ恵みを奪われることになるというのです。当時のファリサイ派の人々、サドカイ派の人々、律法学者たちはそのような人々でした。彼らは他の人と同じくイエス様の言葉を聞きました。イエス様の御言葉が既存の律法の解釈とは違いますが、原論に忠実であることを彼らも分かりました。それで何度もイエス様と議論しましたが、勝つことができなかったのです。しかし彼らは、イエス様の教えよりは自分の平安に従いました。そして結局は、イエス様を十字架に

かけました。恵みが与えられましたが、自分たちが望んでいたメシアが来られましたが、受け入れなかったのです。自分の欲によって悪い者に恵みを奪い取られたのです。

恵みが与えられても受け入れなければ、恵みは無駄なものになります。悪い者、サタンはいつも私たちに与えられた恵みを狙います。私たちが神様の愛を悟らないようにするため、与えられた御言葉を奪い取るのです。イエス様を誘惑したように、私たちにパンとこの世の権力を見せて誘惑するのです。神様の言葉よりは、この世のものを思い出させるのです。私たちを神様の言葉と関係なく生きさせること、これが悪い者の目的です。そしてこの悪い者は、今も大勢の人々から神様の言葉を奪い取っています。

しかし、皆から神様の言葉を奪い取ることはできません。神様の言葉には、力があるからです。ヘブライ人への手紙の著者は、神の言葉についてこう言います。ヘブライ人への手紙4章12節の言葉です。「**というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。**」神様の言葉は、力強く、生きています。それで、御言葉が人に与えられると、御言葉によって多くのことが起こります。今日の福音書20～22節は、御言葉が艱難と迫害、世の思い煩いと富の誘惑によって、実を結ばないことを語っています。しかし、これを他の観点から見ると、御言葉が実を結ぶことはできませんが、人々に与える影響があることが分かります。

もし世の教え通りに生きるとしたら、御言葉による艱難や迫害を受けないでしょう。世の思い煩いや富の誘惑もないでしょう。しかし、神様の御言葉はこれに反対します。世の教え通りに生きてはならないことを語ります。御言葉によって艱難と迫害があることを語ります。御言葉を聞いて、世の思い煩いや富の誘惑によって悩まれることになると言います。そして、このような取り組みで、多くの人がつまずいて、実を結ばないと言います。

私たちが神様の言葉によって得られるものは、百倍、六十倍、三十倍の実だけではありません。御言葉による艱難と迫害、この世の心配と誘惑を得ることになります。世の中の人なら、全く心配する必要がないことを心配し、当然だと思ふことに悩まされるでしょう。神様の言葉が私たちをこの世のものに取り組みさせるからです。これによって、私たちは艱難と迫害を経験することになるのです。世の心配や誘惑に悩まされるのです。そして私たちが自然に分かるようになるでしょう。御言葉の芽が出て伸びることはありますが、自分が良い土地にならなければ、実を結ぶことはできないということが分かります。

良い土地はただで作られません。道端のような土地を切り起こさなければなりません。石を選んで捨て、茨を取り除かなければなりません。このプロセスは容易ではないでしょう。イエス様の弟子たちのことを覚えてみてください。イエス様のお召しに躊躇せず、従った人々ですが、彼らも数多くのことを経験しなければなりませんでした。そして、彼らがその経験によって良い土地になったとき、彼らから百倍、六十倍、三十倍の実が結ばれたのです。御言葉によって得られるものは、実だけではありません。実を結ぶためには、多くのものがついて来るとでしょう。落胆やつまずきや失敗など、私たちが経験したくないものが続いて来るとでしょう。しかし、私たちがこのようなものを恐れないのは、神様の言葉が私たちと共にあるからです。そして、私たちが良い土地になったとき、その言葉が私たちに多くの実をもたらすと信じているからです。御言葉によって起こる艱難や迫害、世の心配と誘惑に勝つ皆様になりますように。良い土地になられ、多くの実を結ばれる皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン